

ログイン日時 : 2021年01月04日 00時18分50秒 | 文 景楠 (教員) |

[×ログアウト](#)**シラバス情報照会 照会画面**

条件指定画面 結果一覧画面 照会画面

シラバス情報

授業情報

授業コード	3132547000	開講キャンパス	泉
授業開講年度	2021年度		
科目コード	5102129919	科目分類	専門科目
科目名称	原典講読 A		
科目英字名称	Reading of Original Texts A		
単位数	1.0		
履修期	前期授業	抽選対象	対象外
代表教員番号	1923836	シラバス投稿状況	投稿完了
担当者	房 賢嬉		
テーマ	メタファーが織りなす言語・思考・行動		
講義内容	<p>私たちは抽象的な概念を理解するために、具体的でわかりやすい別の概念を用いることがあります。その代表的な例として「TIME IS MONEY(時は金なり)」があげられます。「お金」=「貴重で限りある資源」という社会・文化的経験を基盤にし、「時間(お金と同様に貴重で限りある資源)」という抽象的な概念を理解しているわけです。</p> <p>本授業で取り上げる『Metaphors We Live By』の著者、George LakoffとMark Johnsonは、メタファーは文学作品のレトリックにとどまらず、人間の思考過程全般を支えていると主張しています。本授業では、文献講読を通して日常言語にあふれているメタファーについて知り、メタファーの本質に迫ります。この授業は対面授業として行います。</p>		
達成目標	<p>①英語の専門書を精読し、理解することができる。</p> <p>②比喩表現（メタファー、メトニミー、シネクドキ）に関する基本的な事項を説明でき、かつ日本語の分析に用いることができる。</p> <p>③メタファーが言語活動のみならず思考過程や行動様式に至るまで、日常の営みのあらゆるところに浸透していることを理解する。</p>		
授業計画 第1回	<p>【事前学修】シラバスをよく読んでおく。</p> <p>【授業内容】ガイダンス、「比喩生成課題」</p> <p>【事後学修】第1回の授業の振り返りを書く。</p>		
授業計画 第2回	<p>【事前学修】第1章を読む（発表者はレジュメを作成する）</p> <p>【授業内容】第1章 Concepts We Live By</p> <p>【事後学修】「Concepts We Live By」のまとめ&振り返りを書く。</p>		

授業計画 第3回	【事前学修】第2章を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第2章 The Systematicity of Metaphorical Concept 【事後学修】「The Systematicity of Metaphorical Concept」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第4回	【事前学修】第3章を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第3章 Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding 【事後学修】「Metaphorical Systematicity」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第5回	【事前学修】第4章(p.14-17)を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第4章 Orientational Metaphors (1) 【事後学修】「Orientational Metaphors (p.14-17)」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第6回	【事前学修】第4章(p.17-21)を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第4章 Orientational Metaphors (2) 【事後学修】「Orientational Metaphors (p.17-21)」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第7回	【事前学修】第5章を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第5章 Metaphor and Cultural Coherence 【事後学修】「Metaphor and Cultural Coherence」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第8回	【事前学修】第6章(p.25-29)を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第6章 Ontological Metaphors (1) 【事後学修】「Ontological Metaphors(p.25-29)」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第9回	【事前学修】第6章(p.29-32)を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第6章 Ontological Metaphors (2) 【事後学修】「Ontological Metaphors(p.29-32)」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第10回	【事前学修】第7章を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第7章 Personification 【事後学修】「Personification」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第11回	【事前学修】第8章(p.35-37)を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第8章 Metonymy (1) 【事後学修】「Metonymy(p.35-37)」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第12回	【事前学修】第8章(p.37-40)を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第8章 Metonymy (2) 【事後学修】「Metonymy(p.37-40)」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第13回	【事前学修】第9章を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第9章 Challenges to Metaphorical Coherence 【事後学修】「Challenges to Metaphorical Coherence」のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第14回	【事前学修】第11章を読む（発表者はレジюмеを作成する） 【授業内容】第11章 The Partial Nature of Metaphorical 【事後学修】「The Partial Nature of Metaphorical」のまとめ&ふり返りを書く。

授業計画 第15回	<p>【事前学修】これまでの授業内容をふり返し、メタファーが言語・思考・行動をどのように織りなしているか考える。</p> <p>【授業内容】まとめとして、比喩を日本語の分析にどう生かすかについて検討する。</p> <p>【事後学修】第1回～第14回のふり返し集を読みながら、本授業全体のふり返しを書く。</p>
授業計画 第16回	
授業計画 第17回	
授業計画 第18回	
授業計画 第19回	
授業計画 第20回	
授業計画 第21回	
授業計画 第22回	
授業計画 第23回	
授業計画 第24回	
授業計画 第25回	
授業計画 第26回	
授業計画 第27回	
授業計画 第28回	
授業計画 第29回	
授業計画 第30回	
成績評価方法	<p>発表&授業での積極性(50%)、授業ごとの課題(30%)、レポート(20%)により総合的に評価する。評価基準はルーブリックの形で授業時に公開する。</p> <p>※提出課題や発表の内容に関しては、授業中に口頭でフィードバックする。</p> <p>※欠席は減点対象となる。</p>
学修に必要な準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートと辞書を毎回持参してください。 ・自分の担当箇所以外の箇所もしっかり読んでください。 ・円滑な議論のために、毎回予習と復習を行ってください。

関連して受講することが望ましい科目	日本語学
テキスト	Metaphors We Live By.George Lakoff & Mark Johnson著 授業時にプリントを配布します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸健一(2017)『時間の言語学－メタファーから読みとく』ちくま新書 ・瀬戸健一(2011)『メタファー思考－意味と認識のしくみ』講談社現代新書 ・谷口一美(2006)『認知言語学』ひつじ書房
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の授業で受講方法に関する詳しい説明および発表スケジュールの作成を行います。履修希望者は必ず出席してください。 ・この授業では、manabaを使用します。wifiにつなげられる端末を用意し、manabaを使用できる状態にしておいてください。 ・オフィスアワーに代わり、担当教員のメールアドレスを開講時に公開します。また、manabaの個別指導機能も使用します。
カリキュラム中での位置付け及び教育目標との関連	この科目とディプロマ・ポリシーとの関係については、学科の「カリキュラムマップ」を参照のこと。 【アクティブラーニング科目】
添付ファイル1	説明1
添付ファイル2	説明2
添付ファイル3	説明3
添付ファイル4	説明4
添付ファイル5	説明5
関連URL1	
関連URL2	
関連URL3	

教室情報

項番	履修年度	開講期	曜時	使用開講期	教室
1	2021年度	前期授業	木曜 2校時	前期授業	泉) 3 2 I 講義室

カリキュラム情報

項番	学生区分	所属区分	学部	学科	専攻・コース	適用入学年度
1	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2011年度～2011年度
2	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2012年度～2012年度
3	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2013年度～2014年度
4	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2015年度～2016年度

5	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2015年度～2018年度
6	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2017年度～2018年度
7	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2019年度～2019年度
8	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2019年度～2100年度
9	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2020年度～2100年度
10	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2011年度～2011年度
11	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2012年度～2012年度
12	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2013年度～2014年度
13	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2015年度～2016年度
14	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2015年度～2018年度
15	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2017年度～2018年度
16	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2019年度～2019年度
17	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2019年度～2100年度
18	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2020年度～2100年度
19	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2011年度～2011年度
20	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2012年度～2012年度
21	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2013年度～2014年度
22	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2015年度～2016年度
23	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2015年度～2018年度
24	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2017年度～2018年度
25	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2019年度～2019年度

26	学部生	学部生	教養学部 ス	言語文化学科	フランス語コー ス	2019年度～2100年 度
27	学部生	学部生	教養学部 ス	言語文化学科	フランス語コー ス	2020年度～2100年 度
28	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2011年度～2011年 度
29	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2012年度～2012年 度
30	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2013年度～2014年 度
31	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2015年度～2016年 度
32	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2015年度～2018年 度
33	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2017年度～2018年 度
34	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2019年度～2019年 度
35	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2019年度～2100年 度
36	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2020年度～2100年 度
37	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2011年度～2011年 度
38	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2012年度～2012年 度
39	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2013年度～2014年 度
40	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2015年度～2016年 度
41	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2015年度～2018年 度
42	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2017年度～2018年 度
43	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2019年度～2019年 度
44	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2019年度～2100年 度
45	学部生	学部生	教養学部 コース	言語文化学科	韓国・朝鮮語	2020年度～2100年 度

[戻る\(X\)](#)

Copyright(C) TOHOKU GAKUIN All Rights Reserved.